広告

諸外国のＢＳＬ－４施設のいま

―街にとけ込む研究施設―

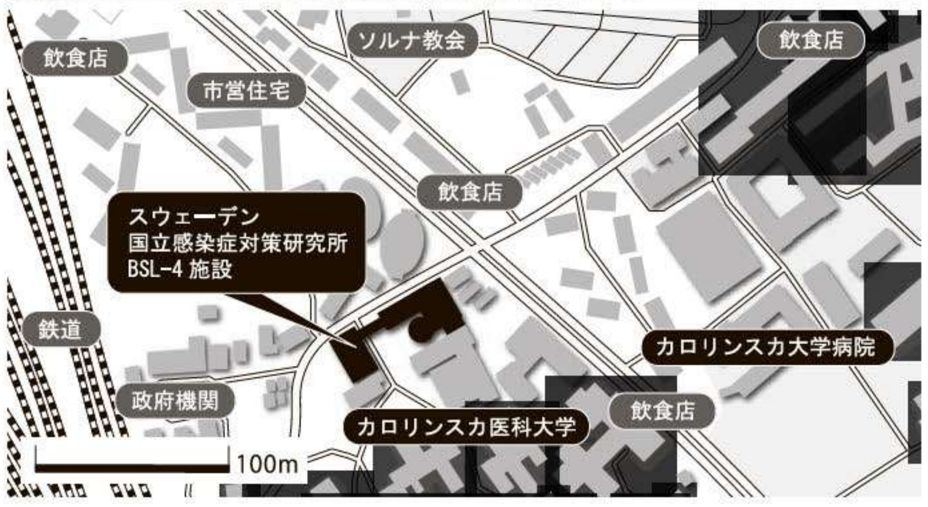
長崎大学は、感染症対策強化のための国策の一つとして位置付けられている新しい感染症研究施設「BSL－4施設」を坂本キャンパス（長崎市坂本1丁目）に設置する計画を進めています。一方、坂本キャンパス周辺の住民の中には「病原体が外部に漏れるのでは」などの不安もあります。そこで、昨年2月と今年1月に欧州のBSL－4施設の視察に参加した市民らの声を紹介します。

海外の実情

スウェーデン国立感染症対策研究所・ＢＳＬ－４施設

施設全景

玄関



地域と共存　市街地に立地も

ＢＳＬ－４施設は１９６０年代後半から稼働し、現在は欧米を中心に２４カ国、５９カ所以上あります。その多くは市街地の中にありますが、安全性の高い施設であり、これまで病原体が外部に漏れ出す事故はありません。

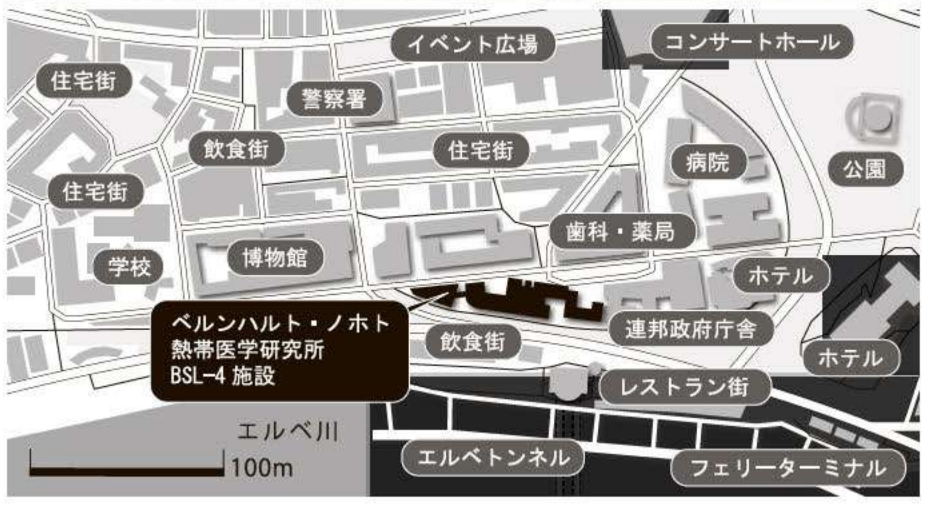
こうした現場を直接確かめようと、坂本キャンパスの近隣住民も参加する地域連絡協議会の委員４人は昨年２月、ドイツにある３カ所の施設を視察しました。このうち、ドイツ北部のハンブルクにあるベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所のＢＳＬ－４施設は１９８２年に稼働開始し、２０１４年からは二つ目の施設も使われています。観光船の船着き場から歩いて５分で、道路向かいにはホテルや飲食店街などが並びます。施設内は、多重の隔壁や空気の陰圧制御などの安全対策が講じられており、厳重なセキュリティーの下で、専門教育を受けた人しか入室が許されません。他方で、施設外には侵入防止の柵やフェンスなどはありません。

今年１月には長崎市議会議員７人がベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所と、スウェーデンの首都ストックホルムにある国立感染症対策研究所のＢＳＬ－４施設を訪れました。スウェーデンの施設は大学キャンパスのそばにあり、５キロ圏内には王宮、市役所、国会などがあります。

施設全景　@BNITM, Hamburg, Germany

玄関　@BNITM, Hamburg, Germany

ベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所(左建物)



視察参加者の声

ドイツ

安心感を得る努力不可欠

地域連絡協議会委員
長崎市ＰＴＡ連合会会長
山里小学校ＰＴＡ会長
原　拓也氏

ドイツでは、大学のキャンパス内にあるＢＳＬ－４施設も視察しました。研究機関という立場を明確にしており、物々しさはなく、肌で「安全」を感じることができました。大学らしく、物理や化学の基礎研究施設、医学系の臨床研究棟、植物園なども敷地内にありました。

長崎大学は坂本キャンパスに設置を計画しています。施設は関係機関と連携することで初めて効果が発揮されると思います。予定地には医学部や熱帯医学研究所があり、長崎大学病院も隣接しているので充実した研究ができるのではないでしょうか。

また「安全」だけでなく「安心」を得る努力も必要です。分からないことがあれば、人は不安を抱いてしまいます。施設ができた後も、運営や研究内容などを市民に定期的にオープンにすることで、安心が得られ、さらには、この施設が子どもたちの憧れになることを期待しています。

「実績」に検証加えて整備を

地域連絡協議会
公募委員
寺井　幹雄氏

今回視察した施設の中には市街地の中に自然な形で存在する所もありました。

ハンブルクの施設は建物のそばに自転車置き場があり、窓越しに施設内をうかがえる所もありました。周囲は人通りも多く、オープンな印象を受けました。実験室への入退室時のシステムをはじめ、病原体を取り扱う安全キャビネットや換気設備などについての説明もありましたが、長崎大学の計画の方がより厳格ではないかと感じる部分もありました。

海外では50年ほど前からＢＳＬ－４施設が稼働していますが、これまでウイルスの外部漏出による感染事故は起きていないそうです。この実績を基に、長崎大学は独自の検証を加えながら整備を進めてほしいと思います。そうすることで大学が掲げる「世界最高水準の安全性」を実現するとともに、地域の理解もさらに深まるのではないでしょうか。

ドイツ・スウェーデン

共存共栄へ重要な信頼関係

長崎市議会議員
深堀　義昭氏

ドイツは港町、スウェーデンは大学キャンパスに施設が隣接しており、長崎を思わせる街並みの中にとけ込んでいました。施設の関係者と話すと地元の理解を得て共存しているとのことでした。社会保障制度が充実し、市民が国や自治体に信頼を寄せていることが背景にあるようです。

私は坂本キャンパスのそばに長年住んでおり、地域住民は熱帯医学研究所や医学部、大学病院と共存していると考えています。ＢＳＬ－４施設の設置計画については国が全面的な支援を表明しています。安全対策の全容が現時点では見えておりませんが、今回の視察をＢＳＬ－４施設のあり方を考える際に生かし、疑問があれば大学側に尋ねていきたいと思います。

セキュリティーや安全対策に万全を期すとともに開かれた施設にすることで、ＢＳＬ－４施設も地元と共存共栄できるでしょう。国際社会に貢献することも期待します。

認識のずれ近づける努力を

長崎市議会議員
橋本　剛氏

ドイツやスウェーデンのＢＳＬ－４施設は、ハード面はもちろん、研究内容をオープンにしたり、研究者の背景や精神状態まで把握したりするなど、ソフト面もしっかりしているという印象でした。そして、周辺住民も施設の存在は知っているが「当たり前の物」として受け止めている様子でした。

これらの施設で扱うウイルスは実際は感染力が低く脆弱なものが多いですが、一般の人は感染力が高く「とても危険な物」と捉えがちです。長崎大学が進める計画を巡っても、大学と住民との間にあるこうした認識のずれをいかに埋めていくかが重要だと思います。

そのためにも、行政は住民の不安をくみ取り大学側に指摘することで、両者の認識のずれを近づけていく努力が求められます。また、海外の施設のようなソフト面の充実を求めて国に働き掛けることも重要だと思います。

研究者と話し高まる安心感

長崎市議会議員
野口　達也氏

欧州ではＢＳＬ－４施設がなぜ街中にあるのかという点に強い疑問を持ち、長崎の街と重ね合わせながら視察しました。

ハンブルクの研究所は港近くの丘の上で、長崎で言うと旧県庁から市役所へ向かう通りのような場所にありました。定期検査中で実験室の中に入ることができ、しっかり密閉された造りを直接確かめました。

スウェーデンの研究所は大学に隣接していますが、道路をはさんですぐに住宅地。長崎大学医学部の正門前に住宅街が広がる光景と似ていました。窓越しですが、防護服を着てトレーニングする姿も見られました。

両方の研究者に施設の危険性を尋ね、返ってきた言葉は「なぜ危険なのか」。安全対策への自負を感じました。長崎大学のＢＳＬ－４施設の方が外部までの距離がありますし、街中で稼働する欧州の現場を見て安心感を高めました。

地域と共生した研究拠点に

長崎大学長
河野　茂

内科医として長崎大学病院で医療活動に長年携わるとともに、肺炎や結核など呼吸器感染症の研究をしてきました。国境を越えた人の移動がますます増加する中、病原性の高い感染症がいつ日本に入ってくるか分かりません。

長崎大学ではこれまでの実績や優れた研究者群を生かし、ＢＳＬ－４施設を中核とした世界有数の感染症の研究拠点を、安全性を十分に確保しながら形成する考えです。この拠点における研究や人材育成を通じて、感染症の脅威から世界や日本の人々を守り、安全・安心な国際観光都市長崎に貢献し、地域と共生していきたいと考えています。

新年度は施設の着工を計画しております。住民の皆様にはＢＳＬ－４施設を取り巻く状況を知っていただき、長崎大学の計画にご理解をいただければ幸いです。この施設に対し不安な気持ちをお持ちの近隣住民の方もいらっしゃることは承知しています。これからも丁寧できめ細かな説明に努めていきます。

長崎大学のBSL－4 施設設置計画

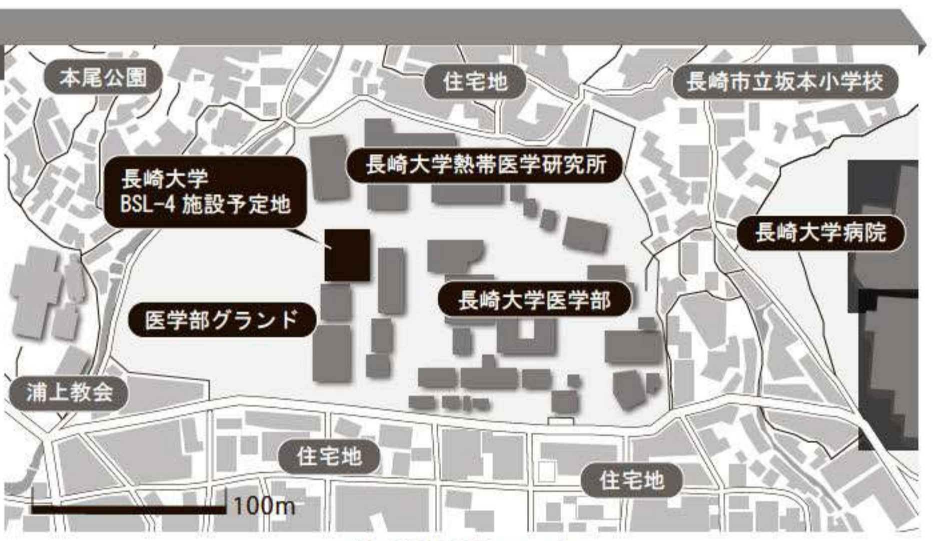
研究通じ人類に貢献へ

病原体の研究施設は、世界保健機関（ＷＨＯ）などが定めた安全管理の基準に基づき、取り扱う病原体のレベルなどに応じて、研究施設の安全性に関する基準であるＢＳＬ（バイオセーフティレベル、基準の数字が大きくなるほど安全対策が強化される）が設けられています。エボラウイルスやラッサウイルスなどは、治療法がなく致死率が特に高い病原体であり、実験室を密閉構造にし排気フィルターを二重にするなどの、厳重な基準を満たすＢＳＬ－４施設で取り扱わなければなりません。

20世紀後半になっても新しい感染症が発生しており、近年では韓国で中東呼吸器症候群（ＭＥＲＳ）が広がりました。長崎市においても、国際クルーズ船で70万人以上（平成28年）が訪れるなど、外国人観光客の増加に伴い新たな感染症がいつまん延するか分かりません。

しかし、国内のＢＳＬ－４施設は東京都武蔵村山市の国立感染症研究所のみで、ここは感染者が発生した際に必要となる検査・診断に特化しています。ＢＳＬ－４病原体の研究を行い、診断方法や治療薬を開発するのは海外に頼っているのが実情です。

長崎大学は熱帯医学研究所などで日本の感染症研究をリードしてきた実績があり、同じ坂本キャンパスにＢＳＬ－４施設の設置を計画し、昨年9月には基本構想をとりまとめました。坂本キャンパスにＢＳＬ－４施設を設置することで、研究を通じて世界に貢献するとともに専門家の人材育成を進めていきます。



長崎大学坂本キャンパス

住民説明会のご案内　お申し込みは不要です

坂本・山里地区のみなさまへ

**世界と日本の感染症とその対策及び
長崎大学が進めています
BSL－4施設計画の現状について
ご説明します**

年月日	時　間	会　場	対　象
平成30年 4月12日(木)	18:30 ～20:00	江平地区ふれあいセンター（長崎市岩川町7-1）	坂本1～3丁目、江平1～3丁目、岩川町、川口町、浜口町、平野町（平野町東部・南部自治会）
平成30年 4月17日(火)	18:30 ～20:00	山里地区ふれあいセンター（長崎市高尾町4-10）	家野町・大橋町・岡町・橋口町・上野町・平野町（平野町山里自治会）・平和町・本尾町・高尾町・本原町・扇町・石神町・辻町・小峰町・三原１丁目

上記以外に、個別の説明のご希望がございましたら、フリーダイヤルまで、お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先
長崎大学感染症共同研究拠点
高度安全実験（ＢＳＬ-4）施設設置準備室
http://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp/bsl4
〒852-8521　長崎市文教町1-14
0120-095-819
FAX.095-819-2960

本広告のお問い合わせ先　長崎大学感染症共同研究拠点　電話番号:0120-095-819　長崎市文教町1番14号